連歌集 一全

伊地知文庫
文庫20
31

文庫20
31

本式連歌百韻　宗祇

名所百韻換吟　同

名所百韻換吟　連順

永享十年
何路連歌百韻　紀記連歌

何路連歌百韻　雜表紙而吟

何船連歌百韻　宗長換吟

何人　同　同

山何　同　同

何路連歌百韻　雜表紙而吟

唐何　百韻　宗祇換吟

伊地知氏書冊

延徳三年九月廿日　夢想

面十　裏六　面名所を
賦何人連今　本式　宗祇

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹そよぐ笹の葉の八月の又冴て
夕を思ひ[illegible]むる人の　屋
[illegible]
別れ[illegible]
みそらゆく[illegible]
水の心の[illegible]　比
後さけふ[illegible]
[illegible]月落て
[illegible]の　物
[illegible]
たつの[illegible]
[illegible]
[illegible]

笑いあるともなく笑うつゝ
ゐるゝとゐるゝ人めらハ
車かくてとまりたるまゝ
程あるゝ數の内とゐるゝん
かゝるゝ月の出れ村雲
初時雨ちくるゝまゝ降あて
すゝ落るゝ雨ゝ音ゆく
聖からつゝ出てゆくむすゝ雨も
音をけるゝ川ゝの里
後を流るゝまゝれていきゝん
月を仕ゝすゝ人ゝ来とし
来ゝくゝ雨ゝ世ゝ嘆むるゝ
ゐくゝみちゝ物ゝ出ゝまゝ
諸国の雨の久ゝ告るゝ山ゝゝ

めゝるゝ物ゝ
流ゝ音ゝ雨ゝ
物すゝ山ゝつゝ
いゝくゝゝ来ゝ
ゐゝくゝも世ゝ
山の路乃流るゝ
きゝくゝ雨ゝ
雨ゝ雨ゝ
月ゝ
雨ゝ人ゝ
うゝきゝゝ
くゝゝ雨ゝ
思ひゝゝ
ゝゝ人ゝ

世くだれば世風のひ
特衣小袖すべて家ゐ
あさましきまでの弱そいもの
ずいぶんくるしむ世を養
すめるや武代ほき山水



名所百題独吟　宗祇

富士の根も年経る雪の郡
末きくくつまの武尾ゆく春
陸奥の名の松島日の雪ねく
霞や隠れくつま明くく
駿河の国のこ去けき場に月澄し
ゆくくやの国の文月雨の比
芋ぬるうを所よ弱尾の一松
いくれいたりの山のかうち
関東は又玉川の宮まくく
都忘れ乃たくを我くく
いくるもいそのの人いし
風の神れつくりまくや
滝系小野し深川未たくく

[illegible]

三笠山は西の方に社をく
り樫の木はいと書まさしく
[illegible]休息の里や著あん
[illegible]や多羽田を行ゆるみち
[illegible]やかの煙ぞ多むき
[illegible]のうすむ二絵堂
[illegible]吉野川の書はく
[illegible]の松
[illegible]山もちりぬん
[illegible]てめや
[illegible]世
[illegible]
[illegible]の名の長井もよしやむの秋

月を生田の[illegible]
小男鹿のつれ[illegible]松原遠く
紫村山をふむ[illegible]
[illegible]きれ橋をい書やはむん
[illegible]
[illegible]風の里もし
[illegible]休息のそのをとく
[illegible]
[illegible]の月いまきき映
[illegible]山の陰の秋
[illegible]は[illegible]き
[illegible]の西家を入て
[illegible]やその川風
[illegible]の橋の杉は

[illegible]
[illegible]
[illegible]

昔はきねうこうの花　雨

広妙の院の御さえ蓮の日う

はすうちもの布引の川

雅俗めうひさもなるのおとろこて

あしの小屋ゆく[illegible]ゆるき世の中

うきすはいかの[illegible]

秋のゆうみの雲をたのすむ

行よりやそ雲の月も雨ゆて

さ[illegible]れあしの北浦の朝霧

風つゝきゆみ車の秋の　蓮

きてる家けさ[illegible]ぬるさの器

うつろふ水は[illegible]ふちはま

ゆふ[illegible]白く[illegible]交

あとをしゝ[illegible]はやあもぬん

[illegible]やあすうの寺う[illegible]

[illegible]を發す門の[illegible]

きの波の末ゆ[illegible]大岩

やうさくうまいゆる[illegible]

[illegible]のうゝ[illegible]

[illegible]沼思ぬ波の雪の

[illegible]の里や月も涙うむ

むゝ[illegible]田のいつもすみを[illegible]

いかそのゝ山乃まのするか

もてうき世さの今秋の衣くよ

人目の実のるの京やさゝん

[illegible]のゝつい本のゆ[illegible]り京の[illegible]

[illegible]の[illegible]れゝ[illegible]のよや

いつくよりあられさん四ゝ川

あふりきいのせの山中より
緑雲の高く奥に響て
暮日雲あらきに鹿生の郭姫



名所百韻独吟　吉順

藤の花さかりの頃やすれば山
白雲いつこ霧むらつきき　常蔵
飛鳥川夕日の陰よ雪清く
ゆるる蓮歌の末の立田姫
ほの〳〵中弱川いつさはのも
ぬるゝ東物〳〵代行の下
風新を伏見の里よやすらえて
都のうちよりも月の秋の影
車やとゝの〳〵雪の朝まき
ゆる小鳥よ使ふ川の名なれ
ばをい船つ川の名なれ
ば物いふ山もさもの山ゝ
大上を老ゆるの杜の末ゆ

村ハ千枝の名はきこゆ
越後の国の海のえにしそすの宮
額波寺とりる行基菩薩
清流うるく震の陸を流きく
まつ風の浦も吉風そふく
前に初こそみなの今やるひ流
橋るかの姫りまの乃ちく
遠浦のこそ浦やいつも山をし
雲ハ久こたうきたりちかえ
二
家すをこそ横川のるは月行
姫やさ武しまき志賀のち越
京うつま無心浦風吉原るよ
ぶたの浦るは姫ぬわり独
新潟ちるいつちこそ心皆雪ち

つるこそうき京の山
橋もそ行月
かくこそ思おの星ちうめし
新おきく名ちの歌きくきて
人ぐわすれしたる熊谷ぶく弟
月もそ朝けるる橋屋の浦波
時雨しまき吉野の雲
伊勢屋の浦も高世や林の若
小ものむりひあもけ初陸山
三
横市や吉るも吉あも文りて
むしさ紀の落るあ
萱さく盛夫の東ま神るたや
吉日の里よくをきの白
ぶ上野とちき朝霧

なつ〜雪をこの梅のむらけ
蕚をきるや竹の冬籠て
すくをはるゝいまゝ冊〜たゝ
まゝ〜やすむ月も世を忘る
雲はわる〜僧侶のいけ
山徳の小倉の里も桂〜て
寒き夕雲の隙を尋ぬ
宮めぐりきゝの浮世のさゝ山
松のくゝたのむ〜冊〜爰
いとゝ〜の名ハ高砂の文庫て
あとゝなす松を寄〜見物
見そやす弱のあゝりハ高
さ〜ねと毋のくゝる宇治川
朝日山出る雲やゆ〜ん

小松のうゝハ陰を惜
神ゝもる雪のゝ里ハ梅咲
鶯ゝやゝ山ゝ〜〜ひきの笑
庵るの咲て岩冊〜咲る東
おきて生田のかゝおさゝし
まやゝ松ゝやの庫の梅の花
梅ハを傳ゝ山みてあやうき
俳諧山雲之さゝき風寒て
夕蕚之きゝ秋之の〜月
三ゝ沼〜十市の里ハゝき中
あつやとさゝをたのむ志のゝ
いゝゝかゝ買きゝ人の乃あゝ
冨の小川も冬の雪の系
知ゝへ松よるゝ山は行

忍まくそはまき時の夏しら

あきしの小野もうむはに
芝くさやおももこあ風ふそ
越しに花ふうき橋本の里
小しろをくよ田の村の民はな
あつきこうされるよいのくむ
ゆくあをとゆくあ雲はの時雨さ
風のとまきたやさう思ひ川

名

鶯くふ彩よ秋ふまれ山
菱州よりまうき斤岳の社
乃ををくすの竹の奥の庵
いつきを雲の林すてあ
秋くあいふう風もあさひく

沼る大井き水河よりり
川ふ系雪の新る匂ま嶺
陽ゆりゆくあいふ陸のも
秋ハ沼男麻北京月とそて
いるちの里を東まを田をち
ふるくふ片沼くあるひあな
君うあうもきめ雲やさ
三陸石や石にのれ沼新さ
なくれ檜ハ陸まくく
江小しく杉本松のいくよ
日書あうきみ母の山みち
紅くゆかちのゆさ花新て
ひくの邦の春やそます
古き世のう田の山新陸新雲

賀茂の川原ハ雪を迷てゝ
いたゞき社神ゝ月ふけて
緑ゝの山の秋ハいろ〳〵

永禄十年七月廿日

賦何路連歌

稙巴

海〳〵ゝ雲ハ北朝戸武
月ハはのくゝらゝ海原
初時の陽ゝ芦を乗あて宗長
神ゝおゝ雲秋ゝ乃青葉
入れの陸ハ遠ゝ以蒼ゝ青
走つゝゝ山ゝ乃遠
日ゝ秋さゝ方ゝ海
松つゝきれ山ゝ秋ゝ
ゝ秋ゝ雲ゝ青ゝ義
ゝゝゝ雲ゝ宗ゝ
雨ハ今ゝ秋ゝ

月まつ雲の風乃涼しき　吉賀
玉かとこの神やしりくさうん　周光
さしかるゝ山のはのたゆまぬ　巴
山川の水のまくけく　法
いさ秋の庵よりそとる　圭
あ[illegible]ぬむ[illegible]の苔のとすんや　[illegible]
[illegible]ぎ[illegible]ろ川も[illegible]する　[illegible]
[illegible]の琴の[illegible]
あ[illegible]
思[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
月ひとり昔の家をしのぶ宿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うつくしきやまを白くぬる法
雪のちりしるる世四ハ行うゝ宗
うすゝきをてゝきく時むの衣お
雪の雪を月の入方まつ所を信
あきゝをたかめ家の秋風の
浦とおく松虫の声をたゝうれ云
思ひあるゝ人をまつ所ん迄
折柳の行を用るめを 衣笠
又をちきゝも赤ハ花 すゝ
清て月海書舟のうけをを法
墨をたゝる紀ゝれ根葛也
谷むもゝ水ゝ所やを吉けるぬん
日ゝまこをちハ程を市かを法
埋火も秋をの物をるゝ行みを云

ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 何路

宗長

行水やさゝれ苔をれ[illegible]
雨の形うれ道ある　山龜
時雨ふる池をの月かゝ
雨をうつをゝれの[illegible]
ゝ衣初て落き[illegible]
分て入ゝ春のいろ　巴
虫の声ハつまるゝ原て
秋のそゝ　[illegible]
うきゝるの[illegible]
流き流[illegible]
沒[illegible]山[illegible]
田中よつ[illegible]の　村也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

関ヶ原の宿や俤片〳〵遠ざかる也
あらふるる風もまぶかく哀
哀しらき茅原村〳〵拾ひて也
老方人の袖の乗ふりき哀
月沙の雲の物凄く雲ゐ
物の姿はしけあさ紀ちも也
別きうの里さ〳〵なる蘇の声
ゆし〳〵や世迫る吹たまん哀
松の葉は入日をあ〳〵面ろく也
ゆうをとる水の一すち哀
かつ戸物乗の形舟のつなで縄
ふ〳〵みやゆのこるらむ
村竹は葉〳〵音尾也
さ〳〵波寄をやう〳〵ひすゑる

いつとなく秋をあしめる人こころに
本もとすゑ〳〵中を通ひ路に
夜の秋は夜の清の色にて
雨の雫と秋ふる雨の音
あはれもあり秋深の夕秋地に
こゝろあるほの布引の山水に
里はたゝ夕日の雲をうしに
吹てすゝしき風の涼に
神はれはむ上の秋の雲に
陰そへ梅しきわりひ雲
筆に書も時の移を遠そへ
やうやうあまさに月の雲山路に
ぬるゝ雲つゝらの花絶めん
風のまに〳〵蕃ふる夏に

外面なる茅葺松の陰たそへ
西日射るも新いさやあ〳〵に
秋ちらまこそ小雲月の淋ふる
ふえのあしる田上神〳〵山に
神はた〳〵川辺の小舟にて
ひゝ〳〵〳〵ゆく
まもあるあるは秋あても見雲に
立秋つれを世めて尋ふる
仲をこめこし雲の夕雨に
物情の雑の未乃茅に
折出て弱いと雲〳〵にて
雨り〳〵乃少雲の下に
本拍の色いとゆ〳〵にて
行る布きき雲の松姫書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

永正九年月次和歌会

[illegible]

[illegible]

何船　宗長独吟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさりする小舟山の麓にて月を
さしあげて見るに
詩り武西るぬるさく吟るん
雲を吹てあらしの風も冷しく
稲葉を刈て小の月を仮ねて
書を書る屋をとまりてきく
仏ある初のこるこい高ぬん
らきをもおひしきぬ世
石のいとてもあ新西く
人もこもいとてもいとさし
ものあてつきをというこつ
このそさくるあおるん
三
都をいかのぬあるる筆を
をぬゆ
かりひくそや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行あるいとすれば海の風の義の者
うたうたうたう

[illegible]

## 何人

宝長連吟

[illegible]

月は雲ある夕ぐれ雨ふる時しもあまを舟のをもらせそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明るくちらき去をまつ
ふうき東ハ又昔ゐを振まて
むさぼ〳〵新の笑の袖く
西望おぼゆ山とさめ〳〵ん
霧のさま〳〵志賀の浦去
きさらぬ門そのうけき朝明
さ〳〵てり〳〵毋ス〳〵すゐる
月更ぬいつくの袋り移ゆん
さそゐ戸さ〳〵い香のまひら
朝臭の篠の葉神うみて
とすうハ秋の色ハの色
何ゐぬらさまあぬ三日峠
つ〳〵ぬ〳〵の袋ハ分〳〵
いて方のむくもちつゐ〳〵ん

いて〳〵ちひの住き宝の戸
岩〳〵む山の寺を語るひぬ
苔ぬ〳〵のゐるゐの細反
あそれゐ貴ハ本る人の語て
あすの今あとハ何をおん
ゐるのあすゐの異市仮色
うてるせゐ形く川風そく
母のるよう極ハ花の葉露
ゐ〳〵ゑ去よいつち芝ゐる
大方いうすむ月れる明て
山の袋るに花をはゐ反
語を〳〵さ紀いるゐ去く
袋ゐ去んて花のて
いつ〳〵形く送て通る年〳〵

うきい境のそこの土くれ
高潮さしひたさん物うて
古里人乃秋のゆふくれを
行こしかたをかへりみん
尾花もいかの月のさむしろ
家々に秋風ふきぬるよ
ゆるしてはいかに
と問いし一条殿と伺ひ
ちくさの草乃ちるかなべ
ひさかたの月のさやけ
雲もたつまいき
ゆくへなしくれぬ秋まて
ゆくへなきかなる乃里

小世古殿

宝暦癸酉

## 山何

[illegible]
[illegible]
[illegible]

夏のはいとをかしく人のこゝろ
起て雨ぬるゝ所いそぐ寺
わうつきやうつる雪も橋しん
雪ふりてそこはぬる羽のこゝ
ちしてもあらぬ朝点高めや
めれて冷しく音のやすひ
村雨い山の陰雲(ふるきゝて)ふるく
沒ぬるゝ一夏ふ
ちつ雲雀空より鳴る声をゝ
雲よりのる古里乃秋
二 指をゝ雲の乃芝やのそ
むしもいつゝ人ゝとあく
月ゝて明ぬ海山ゝ
ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ

何事ゝと家ゝ雨降ぬん
ひゝの色のはりのすゝや
あけくれきゝ鶯ゝ鳴ゝて
ゝの前ゝぬゝや入ゝのゝ
山ゝゝゝゝゝ
若ゝ橋ゝの柳ゝ色の色
ゝゝゝ行ゝゝゝ
池のかゝみとりけてゝ
秋の月むくいゝゝ
家ゝ陰ゝゝゝ
三 ゝゝ暮ゝ羽ゝゝ
あゝゝのゝゝの風のゝゝ
夕ゝれゝ山ゝゝ
始ゝゝ橋ゝゝ

[illegible]
難波の浦いきき事の声
きれうそのひの初めのまくせん
[illegible]
たのもしや時の雲とうき笑
中しく春いちしるい山うの秋
秋い雨は志ほる草の色既し
つみきてせたやそてり去
人なるぬ家の神とりやて
つうきる仏ろ月の明日の
三月廿のさきあてそ秋の事よ
高こう康明元とつ由やなく
山ろうの日田のろの若緑く
市ちそのある竹のや庵

[illegible]
[illegible]
[illegible]

風いかあらしや松はすゆらん
なりくらのたてくちなくに
すめる東の月冥るいはほて
志のり冥る春の霞しほを
秋毛てのくいつもりし雲
言かのくとさ雷山
雲や行かるるまよ陽うん
雪のこるまさいこまさくまに
冬くれの中ゆ松村日ハ長て
樹の葉しくもちをる月ゆ
警のかる家も白河の水さ
波よ世ゆる川うゑ乃者
俗り秋ひとりくさ冬
まくる時くゆ九月のさやら

きりくを神の下形る事後て
今ハ歳をの秋乃初雲
樓しより松をト冬ゆ
ふ里も白しく梅を咲りり

右連歌を岩井田書支義書
を清して写し畢ぬこのもし
かのとの巳の八月　弘明

語字脱字ならかしまる乃南さて
紀さ本寺本の仮写ぬ

文明十四年二月廿五日　於堀泉山

於有馬山両吟連歌

何路　宗伊

雪ハ雪ふむせひしく山路�

梅うめる野の雪あるさきはる嵐　祇

霞初るなの地名ハいとく　伊

入日の色の風乃さきの　祇

まてる月行雲やかゝるらん　伊

吐雨る秋のさよてゝ　祇

いるさとゝうゝ物の声ゝあ　伊

やうゝや出る人さゝくふう　祇

ふきゝる秋かゝゝさき山の陰　御

分ける雲ゝ行とあゝゝす　伊

玉琴のよゝつゝよ年ゝゝる　祇

[illegible]さまさるそちねの枝　伊
[illegible]のいるあんもさ[illegible]　紙
[illegible]れハ法神よりかくまり　伊
[illegible]あしら法あるもつき[illegible]　紙
[illegible]ぬ[illegible]ハあけや[illegible]　伊

[illegible]のようをおくるこゝ人　伊
[illegible]人を[illegible]の法をとるなん　紙
[illegible]のこゝ[illegible]　伊
[illegible]ハ花の[illegible]人うすもし　紙
[illegible]の初時をおくも[illegible]　伊
[illegible]神[illegible]の中ろ[illegible]　い
[illegible]を[illegible]す[illegible]ろ　紙
[illegible]のとふ人のを[illegible]て　伊

[illegible]むくを山[illegible]ゆく　紙
[illegible]月[illegible]　伊
[illegible]のちりをたくふ[illegible]　紙
[illegible]ハ[illegible]　伊
[illegible]さ[illegible]の　[illegible]　紙
[illegible]ハ[illegible]　伊
[illegible]たそ[illegible]れの[illegible]　紙
[illegible]ハ[illegible]　伊
[illegible]人[illegible]　紙
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]　伊
[illegible]風[illegible]ろ[illegible]朝ゆ[illegible]　紙
山[illegible]いつ[illegible]の[illegible]ん　伊
[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]ハ
[illegible]ハ[illegible]ま[illegible]ハ　紙

行くもあとなめ雲を拂ふ伊
白雲のおのいつくよりか祇
とろこしたくしをさす中伊
仏く入人をいかんよりか山祇
あこるとかの奥の峯〳〵伊
梅ちるあとの白雲日ハさく祇
風とまひけいまをあそしる伊
七夕望るまてあまた旅の袖祇
紫しき織り乗いふけより伊
ちとうえ芙蓉ふかけ風ふく祇
うち寄る波の白そそられあ伊
朝ちの格をそなもる秋の雲ハ
いく夕べの歩をかゝすん祇
長月の秋をあきさきりくに伊

雨ふるのやとのいねそのそ祇
ちひくくき蓮月をあはせん伊
ひめるとすれいうくる紛祇
あき移るあく書のりすえ伊
仏やたのむ祇
あてたくるゆのをのね〳〵乃伊
おくるも赤せ隠のくる上祇
の雨ふれる桃のむうけて伊
うつる巳のとのもくをする祇
ひちをの面白雲むゆきさる伊
けりさうまつ味うすむうく祇
まむすふ指の月を又中ゑむハ
面ともい花を行る秋の跡伊
雪かくる山すと桜あ中〳〵く祇

[illegible] 伊
[illegible] 紙
[illegible]川風をあく 伊
[illegible]ん 紙
[illegible] 伊

あるす家の雲の音 紙
よるひるくもみき月を寒みある 伊
[illegible]ハ春さく雪のうら寒 紙
[illegible]ますき 伊
[illegible]ハおるもせて 紙
[illegible]の庵なる 伊
[illegible]ハ冥[illegible]ぬと吹風い
[illegible]の久うゆ 紙
[illegible]き一番 伊

月のとまるも山ハ冴し 紙
[illegible]ひ 伊
昔のかしもこれをちきしむ 紙
[illegible]ハ思ふ[illegible]忘川 伊
[illegible]ますれとや 紙
[illegible]の海を[illegible] 伊
[illegible]ゆゆ 紙
[illegible]ん 伊
[illegible]のいろ〳〵 紙
[illegible]おりとく 伊
[illegible]たるもれをゆめ 紙
[illegible]の命のわ[illegible]ん い
[illegible]ん[illegible] 伊
[illegible]ぬ[illegible]き 伊
[illegible]ひ[illegible] 紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治八年三月

宮祇七十九年のこの月ごろ七月まで
ごとの月のなかの人遺誡のあるを元亀体
種吟宮長注之連歌発句題ごとの
[illegible]

宗祇

## 唐何

かきつばた人のくるべきなかの
[illegible]
都より[illegible]
[illegible]
[illegible]

四国のたつこ山なるくらん
ゆくすえはいかに
月のあるる雲をかきたる月をく
はるゝ雲戸陸のあけゆく
いつきて う角田川こえ所へ
角田川はるとときは
なとすみだ川八はしの内
ちきりきやあるあ山の松の陰
世をのがれても苦しむつまし
あさうくを二度八義とたのもて
きえんりゝれゆくをまつ
屋ゝは敬神きく貧をれむ事
仏ゝくてやあるをうゝむ
かるるやあさのその家の者
法をうとひゝ名ゝもたん

ちきりてはえやいるゝてのその京
くりまんさもまゝあるる星
いるのをれ丸をそ雲の跡
あゝくのあをゝる振く
命も天ゝトやはゝかん
すめやまきのめの本を形ゝ
桜屋はの禁やかをゝ
月ゝくゝりゝ山きゝの星
月ゝてるのあゝゝゆるあ
命をゝりゝくゝ面やゝうきむ
ゝすゝある風のゝ神の形人ゆて
たゝこゝくゝの夕すゝるる
あゝゆるゝすゝんも　仏月れ
つゝまるのゝやゝくゝさくゝき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花はさやちるさくら姫の久てふり
日ふりきのこゝやゝ古里の　去
年はものはるかをそゝ遅
うすこゝかくる海士のつりふね
なかうら先せん月おもふれて波の上
やすかゝやかりそめ〳〵ゝ月なる海の面の
なかゝやゝ秋の事きあ〳〵ゝ
を書を收ふ雁仁ゝ
ありひのゝ山よ世をやそさし
きゝ〳〵なるいつくゝちりのうちゝん
うゝきりもとゝいゝ〳〵くの江
梅ゝ〳〵ゝ和ゝ年ゝ和ゝ〳〵
月ハ月の前代わゝ仁ゝ
あゝをほゝ出ゝ山ゝ月ゝ
なるのゝゝゝハ月ゝゝあゝ



たゝ和ゝなるをハ秋ゝ
きゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　ひゝゝゝ
をのゝ世ハかゝの別ゝ和ゝて

文政十年丁亥五月

荒木田盧巖